

5. 各施設計画

5－1 硬式兼軟式野球場整備計画

硬式兼軟式野球場の規模や機能などについて、施設を利用する団体や関係者等と調整を図り、新規野球場整備へ向けた基本的な施設設計についてとりまとめていきます。

(1) 整備の基本方針

① 真岡市唯一の硬式にも対応した野球場として、相応しい機能とグレードを有した施設とします。

② 施設位置は、南ブロック中央部に配置し、本塁側を北北西(競技者主体)の向きとします。

③ 真岡市総合運動公園の核となる運動施設として市民に開かれた親しみやすい施設とします。

④ 競技者や観客など、多くの方が利用しやすい施設機能を導入します。

⑤ ユニバーサルデザインに配慮した施設として計画します。

⑥ 災害時の救援活動、復旧活動の拠点となりうるよう防災施設として整備します。

⑦ 周辺環境になじむスタジアム外観や施設として計画します。

(2) 施設の基本機能

<フィールド>

- ① フィールド規模は、真岡市唯一の硬式にも対応した野球場として、高いレベルの競技が行えるよう両翼98m、センター122m程度として整備します。(整備水準：公認野球場)
- ② 内野グラウンド舗装は、表層はクレイ(土系)舗装とし、排水性を考慮し、黒土+川砂の混合土とします。
- ③ 外野グラウンド舗装は天然芝舗装とし、緻密で維持管理が比較的かからない「コウライシバ」等を選定します。
- ④ 打球を追う外野手に外野フェンスが近づいていることを知らせるため、ウォーニングゾーンを設置します。

<内野スタンド・諸室>

- ① 観客の収容人員はバックネット裏、内野スタンドで2,000人程度を収容可能とします。
- ② 快適な試合観戦ができるよう、屋根をバックネット裏観客席の一部に設置します。
- ③ 観客席は、観戦環境向上のため個別席とし、一部は応援を考慮しベンチシートとする。
- ④ 大会関係諸室(本部室、役員室、記録放送室等)はバックネット裏1階部分に設置します。
- ⑤ 利用者諸室(更衣室、シャワー、トイレ等)は、大会利用を考慮し1塁側、3塁側にそれぞれ設置します。

- ⑥ 各種大会利用を考慮し、屋内ブルペンを1塁側、3塁側にそれぞれ設置します。

<外野スタンド>

- ① 広く市民利用を図るため、外野スタンド部分は、芝生席として整備します。
- ② 観客の収容人員は外野スタンドで1,500人程度を収容可能とします。
- ③ 野球場側はスタンドからの観戦を考慮し、1m程度高低差を設け、スタンドの勾配は芝生法面に座っての観戦を考慮し、1：6の勾配として整備します。

<照明設備>

- ① ナイター照明については、硬式野球の観客のいる地域全体又は特定地域における一般的な運動競技会。高水準のトレーニング。軟式野球の観客のいる国際、国内、地域全体又は特定地域における最高水準の運動競技会。最高水準のトレーニング。BCリーグ基準値以上(内野750Lx以上、外野500Lx以上)として照度を確保します。
- ② LED投光器を採用し、周辺への光害の軽減や防虫対策を行うとともに、長寿命化や節電を実現可能な計画とします。

<その他>

- ① 競技者の乗降や荷物の積み下ろしに配慮し、大型バスが寄り付けるロータリーをメインの入口付近に設置します。
- ② 誰もが利用しやすい施設となるよう、多機能トイレの設置やサイン計画など、ユニバーサルデザインに配慮した施設とします。
- ③ フィールド及び諸室を、災害時の復旧活動等の活動拠点として使用可能として計画します。
- ④ 隣接する広場との一体的利用など、周辺施設と連携を図る施設等を導入する。
- ⑤ 球場外周部には、幅5～6mのアスファルト舗装園路を設置する計画とします。
- ⑥ 隣接する駐車場からアクセスしやすい動線を確保するよう園路や出入口を配置します。
- ⑦ 外野グラウンドの天然芝養生のための散水施設の導入を計画します。
- ⑧ 防球ネットを設置し、公園利用者の安全を確保します。

５－２ 運動広場１（人工芝）整備計画

運動広場１（人工芝）の規模や機能などについて、施設を利用する団体や関係者等と調整を図り、広場整備へ向けた基本的な施設設計についてとりまとめていきます。

（１）整備の基本方針

① 2022年本県で開催予定の国民体育大会サッカー会場としての使用を想定した施設として計画します。

② 運動広場の軸線方向を望ましい方向（太陽を直視しない）となる南北の向きとします。

③ 日本サッカー協会の主催する大会に対応するピッチサイズ１０５ｍ×６８ｍとして計画します。

④ 競技者や観客の動線に配慮した計画とします。

⑤ ユニバーサルデザインに配慮した施設として計画します。

⑥ 災害時の救援活動、復旧活動の拠点となりうるよう防災施設として整備します。

⑦ 近年の猛暑などに配慮した施設として計画します。

＜その他＞

① 広場外周部には、幅４ｍのアスファルト舗装園路を設置する計画とします。□

② 隣接する駐車場からアクセスしやすい動線を確保するよう園路や出入口を配置します。

③ 防球ネットは、高さ５～１０ｍ程度により設置し、公園利用者の安全を確保します。

④ 誰もが利用しやすい施設となるよう、段差の少ない施設やサイン計画など、ユニバーサルデザインに配慮した施設とする。

⑤ 近年の猛暑対策として、ミスト散水施設などの導入を検討します。

（２）施設の基本機能

＜フィールド＞

① 対象となる競技は、サッカー、８人制サッカーとして計画します。

② 芝養生期間の不要な、人工芝（日本サッカー協会公認芝）のグラウンドとして整備します。

③ ピッチサイズ１０５ｍ×６８ｍの外側に５ｍの間隔をとって、１１５ｍ×７８ｍで芝面を整備します。

④ 救急車等の緊急車両がフィールド内にアクセスできる動線を確保します。

⑤ ８人制サッカーを考慮してハーフコート利用のコートラインを描く計画とします。

⑥ 国体開催時の観客収容エリアを想定して、フィールドの外側に１０ｍの用地を確保します。

⑦ フィールドを、災害時の復旧活動等の活動拠点として使用可能とします。

＜照明設備＞

① 夜間照明は、高水準のトレーニングを対象とした平均照度２００Ｌｘ以上として計画します。

② ＬＥＤ投光器を採用し、周辺への光害の軽減や防虫対策を行うとともに、長寿命化や節電を実現可能な計画とします。

5－3 運動広場2（天然芝）整備計画

運動広場2（天然芝）の規模や機能などについて、施設を利用する団体や関係者等と調整を図り、広場整備へ向けた基本的な施設設計についてとりまとめていきます。

（1）整備の基本方針

① 野球の補助球場や、グラウンドゴルフの利用を想定した施設として整備します。

② 施設位置は、硬式兼軟式球場に隣接した場所に配置します。

（2）施設の基本機能

<フィールド>

- ① 軟式野球や、グラウンドゴルフが利用できる規模として整備します。□
- ② 天然芝舗装（一部土舗装）とし、剛健で維持管理が比較的にかからない「野芝」などを選定します。

<内野スタンド・諸室>

- ① 既存の東運動場の内野スタンドやダッグアウト、諸室関係施設は撤去します。
- ② 補助球場のため、スタンド等は設置しない計画とします。

<外野スタンド>

- ① フリースペースとして、外野スタンドは設置しない計画とします。
- ② 周辺園路沿いには、ベンチなどの休養施設を設置します。

<照明設備>

- ① 補助球場のため、ナイター照明施設は設置しない計画とします。

<その他>

- ① 広場外周部には、幅3～6mのアスファルト舗装園路を設置する計画とします。
- ② 隣接する駐車場からアクセスしやすい動線を確保するよう園路や出入口を配置します。
- ③ 防球ネット等を設置し、公園利用者の安全、利便性を確保します。
- ④ 周辺園路沿いには、水飲み場等の施設を設置します。

5－4 その他施設整備計画

駐車場・駐輪場や園路、エントランス広場、芝生広場や調整池及び各種建築物などについて施設を管理する部門と調整を図り、整備へ向けた基本的な施設計画についてとりまとめていきます。

（１）駐車場整備計画

- ① 接続する県道側及び市道側よりスムーズに目的施設にアプローチできるよう分散配置形式を採用します。
- ② 東側駐車場は、北側の市道１１６号線に出入口を設置し、大型車１６台、普通車２０５台の駐車台数として計画します。
- ③ 中央駐車場は、北側の市道１１６号線に出入口を設置し、普通車１１６台の駐車台数として計画します。
- ④ 西側駐車場は、西側の県道真岡岩瀬線に出入口を設置し、普通車３３７台の駐車台数として計画します。
- ⑤ 南ブロック駐車場は、合計で大型車１６台、普通車６５８台の駐車台数として計画します。
- ⑥ 駐車場は、アスファルト舗装により整備を図る計画とします。
- ⑦ 北ブロックに整備済の普通車３２３台分の駐車場と合わせて、合計約１，０００台の普通車駐車場を整備します。

（２）駐輪場整備計画

- ① 北側市道及び、西側県道近くの２箇所に、各８０台分の駐輪場を設置します。□
- ② 駐輪場は、コンクリート舗装により整備を図る計画とします。

（３）園路整備計画

- ① 園路(幅員３ｍ～６ｍ)を公園内に配置し、来園者の通行や管理車両の通路として活用します。□
- ② 防災園路や管理車両の通行が多い園路は幅員６ｍとし、管理車両が入る園路は幅員４ｍ、歩行者□がメインの園路は幅員３ｍで整備します。
- ③ 園路は、アスファルト舗装により整備を図る計画とします。
- ④ ウォーキング・ジョギングコースは、ゴムチップ舗装により整備を図る計画とします。

（４）エントランス広場整備計画

- ① 北側の市道１１６号線に接続し、硬式兼軟式野球場前で乗降のためのロータリーを設置し、その□周辺を歩行者が通行できるスペースとして整備します。
- ② 歩道部は、空間の高質化を図るため、バリアフリーに対応したインターロッキングブロック舗装などを採用し、整備する計画とします。

（５）芝生広場整備計画

- ① 来園者が自由に利用できるようなフリースペースとして、芝生広場を３箇所整備します。(合計面積約２０，０００㎡)
- ② 芝生は、剛健で踏圧に強い、「野芝」により整備する計画とします。
- ③ 芝生広場内には、休養施設として四阿やベンチを配置する計画とします。

（６）調整池整備計画

- ① 北ブロック西側Ａ＝７．９９ｈａと南ブロックＡ＝１２．９０ｈａの合計Ａ＝２０．８９ｈａを流域として、調整池を計画します。
- ② 計画高さが最も低くなる区域南西部に調整池を配置し、公園内の雨水を集水する計画とします。
- ③ 調整池は、３０年確率の降雨強度に対応した貯留量 $V=7,746\text{m}^3$ を調整する計画とします。
- ④ 調整池は、面積 $A=6,060\text{m}^2$ 、最大水深 $H=1.5\text{m}$ 程度として計画します。
- ⑤ 調整池からの放流量は、下流水路の最小流下能力地点以下に調整して放流する計画とします。
- ⑥ 調整池護岸は、周辺景観になじむような緑化可能な護岸工として計画します。
- ⑦ 調整池外周には、立ち入り防止のためのフェンス($H=1.8\text{m}$)を設置する計画とします。

（７）トイレ整備計画

- ① トイレ１棟は、男子(大２小４洗面２)、女子(大３洗面３)、多目的便所(１)の合計１０穴程度の規模で整備します。
- ② 東側及び西側の来園者の通行が多い箇所にそれぞれ１棟設置する計画とします。
- ③ トイレ１棟は、建築面積 60m^2 程度として計画します。

（８）防災倉庫整備計画

- ① 防災倉庫へのアクセス性を考慮し、西側の県道真岡岩瀬線出入口から近い位置に配置します。
- ② 防災倉庫１棟は、建築面積 400m^2 程度として計画します。